

2012 KATE International Conference 報告

山内ひさ子
(長崎県立大学シーボルト校)

2012年7月6～7日に韓国ソウル市の淑明女子大学校 (Sookmyung Women's University) で開催された2012 KATE International Conference に JACET 代表として、私の共同研究者である2名の JACET 会員とともに (河又貴洋氏、Joel Hensley 氏。両氏とも長崎県立大学教員) 参加し、特別講演者として発表しましたので報告をします。

今年度の KATE の大会テーマは “English Proficiency for All: Narrowing the English Gap” でした。基調講演3件、特別講演8件 (うち1件はキャンセル)、研究発表90件、Workshop 2件で構成された大会で、使用言語は全て英語でした。Kwon 元 KATE 会長の話によると、大会の規模も内容も共に、ますます充実した大会となってきたとのこと。もともとは JACET の全国大会に並ぶような大会にしたいと願い、努力を重ねてきたということだそうですが、今日ではすでに基調講演者数と招待された特別講演者数では、JACET 国際大会をしのぐほどになってきていると思われます。基調講演者も特別講演者 (私たちを含み) も、大会テーマのハイライトに当たる “narrowing the English gap” を、それぞれの立場から解釈を加え、その gap の縮小に取り組むための提言や実践方法についての考察がなされている点に強く感銘を受けました。

大会プログラムが直前までウェブサイトに掲載されていなかったため、私はプログラムを日本出発まで確認することができず、提携学会の代表者として質疑応答を含み30分の研究発表とっていました。しかし、実はソウル行きの飛行機の中で共同発表者から、私たちの発表が Featured Speech となっており、発表時間も40分であることを聞きました。私たちの発表演題は “Developing CALL Materials for English for Tourism on UNESCO World Heritage Sites” で、昨年度から始めた CALL 教材開発についてのものですので、実は大会テーマとはあまり関連のない内容です。しかし、その夜、私は原稿の手直しをして、発表の中で大会テーマに触れる部分を2、3か所加え、「私たちの英語教材開発研究は、今日の日本の英語教育で問題となっている “gap” の縮小に狙いがある」と述べて、KATE の大会テーマとの関連付けを行いました。その甲斐あってか、200名を超える聴衆を前に、私たちの発表は予想以上に好評でした。

このことから、提携学会への JACET の代表者は、招待に対する提携学会へのお礼の口上はもちろんのこと、研究発表や講演の中で、大会テーマとの関連を、たとえ苦しい「かこつけ」であっても、はっきりと述べるが大変重要ではないかと思いました。特に海外からの講演者による講演や研究発表を聞きに来る人は、大会テーマに関して、「海外ではどのような取り組みが行われており、またその取り組みによりどのような成果を上げているのか、また、何か自分たちにとっても参考にできないものがないのか」という気持ちで聞いているので、その期待に少しでも応えることが大切であると感じました。

そういった意味でも、下記に紹介する基調講演者も特別講演者も、それぞれの立場と教育実践の中に見いだした “gap” の内容を特定し、その差の縮小に焦点を当てた講演になるような構成にしていました。

基調講演名と演題：

1. Richard Baldauf (University of Queensland, Australia) : “Narrowing the English proficiency gap: A language planning perspective”
2. Alan Hirvela (Ohio State University, U.S.A.) : “The role of writing in narrowing the English proficiency gap”
3. Rebecca Hughes (Sheffield University, U.K.) : “What is advanced speaking?”

特別講演名と演題：

1. Cynthia Yolanda Doss (MARA University of Technology, Malaysia) : “Language planning: Generating engagement and change”
2. Willy Renandya (National Institute of Education, Singapore) : “ ‘Teacher, I can’t catch the word’: Listening problems in L2 classrooms”
3. Jeon-Won Lee (Chungnam National University, Korea) : “Reflections on English divide in Korea”
4. Malbert Smith III (MetaMetrics, U.S.A.): “Re-interpreting the gap with the lexile framework for reading”
5. Chinfen Chen (National Taipei University of Education, Taiwan): “Why and how to bridge the gap of EFL learning achievement among Taiwanese young learners”
6. Cathy Wong (The Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong) : “‘The English divide’ in Hong Kong
7. Styra Wacana (Christian University, Indonesia) : “Empowering students, disempowering teachers?: The case of international standard high schools in Indonesia”
8. Hisako Yamauchi, Oda Mariko, Kawamata Takahiro, Joel Hensley (JACET) : Developing CALL materials for English for tourism on UNESCO world heritage sites